

ミュージアム・ツーリズム考

——「博物館の長い夜・ベルリン」を中心に——

種 田 明

Über den Museum-Tourismus denken: Aus Anlaß von der Lange Nacht der Museen in Berlin

Akira OITA

要 旨：博物館帝国とも呼称されるドイツにおいて、世界遺産「ベルリンの博物館島」を有する首都ベルリン市（／州）の博物館は、1997年よりツーリズムによる新たな試みを開始した。「博物館の長い夜・ベルリン」である。これまでのミュージアム・ツーリズム、すなわち観光対象・目的地としての博物館の殻を破ったこの新たな観光・集客の試みは、すぐさま多くのEU加盟国に、そしてそれ以外の国や日本（諏訪市）にも波及している。

本稿は「博物館の長い夜・ベルリン」を手がかりに、博物館（学）の側からではなく、観光（学）の側から、ミュージアムとツーリズム／観光の連携関係のあり方、ミュージアム・マーケティングの可能性を考察するものである。

キーワード：博物館の日独比較、ミュージアム・ツーリズム、博物館の長い夜

日本とヨーロッパ／ドイツの博物館

博物館は、日本では「博物館法」・「社会教育法」により、ヨーロッパ（ドイツ）ではICOM（国際博物館会議）により定義・規定されている。日本では、“歴史、芸術、民俗、産業、自然科学に関する資料を収集し、保管（育成を含む）し、展示して教育的配慮のもとに一般の公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するための必要な事業を行う施設”とされている。

博物館の数は、文部科学省が3年ごとに行っている“社会教育調査”によれば以下：

表1 日本の博物館数 2002～2011

年 度	平成14 (2002)	平成17	平成20	平成23 (2011)
館 数	5,363	5,614	5,775	5,752

(出典：「平成23年度社会教育調査（中間報告）について」／出所：http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo2/siryou/_icsFiles/afiedfile/2013/01/30/1330218_1.pdf (2013.10.3検索))

館数は平成25（2013）年現在、約5750館である。[注記に「被災地（岩手県、宮城県、福島県）については、博物館の入場者数や図書館の図書貸出数などの活動状況は調査対象外としたが、施設数や職員数などの現状の把握は3県を含めて調査対象とした」とあるため館数のみ抜粋した。]

博物館数は、3つの区分「登録博物館」（平成14年816）「博物館相当施設」（同年301）「博物館類似施設」（同年4,243：速報数／博物館法の適用を受けない施設だが、相当施設と同等以上の規模）の合計数（5,360：上記〔表1〕5363は確定数）である。また、館種は「総合博物館」「科学博物館」「歴史博物館」「美術博物館」「野外博物館」「動物園」「植物園」「動植物園」「水族館」で調査対象は9館種である。登録が少ないのは創設者・所有者、すなわち館設置母体は

地方公共団体であるか、博物館法第34条により定められた赤十字・NHK（日本放送協会）・宗教法人でなければならず、国立・私立の館は相当施設あるいは類似施設になってしまうからである。2001年の省庁再編・「独立行政法人」化と2003年地方自治法一部改正による「指定管理者制度」導入は、博物館のこれまでのあり方や扱いを少しずつ変化させ始めている。

ヨーロッパ/ドイツでは博物館概念は日本よりさらに広く考えられている。ICOM 第16回総会（ハーグ、1989年）採択の定義では「博物館とは、社会とその発展に貢献し、研究・教育・楽しみの目的で人間とその環境に関する物質資料を取得、保存、研究、伝達、展示する公共の非営利常設機関である」（ICOM 日本委員会訳）と広義にとらえている。そして、管理体制の性格、地域の特性、機能構造、収集方針によっても制限されない。したがって「自然、考古学、民族学上の遺物、遺跡、史跡及び人間とその環境に関連する物的資料を取得・保存・伝達する博物館の性格を有する場所」「植物、動物、の生物標本を収集・展示する機関」（＝植物園、動物園、水族館、ビバリア [vivaria：水槽] など）「科学センター」「プラネタリウム」「図書館及び公文書センターの常設保存研究所及び展示ギャラリー」「自然保護地」のほか執行委員会が認めたものまで、実に幅広い。

2004年の“ヨーロッパ博物館統計ガイド”から、日本との比較でドイツをみてみよう：

表2 ドイツの博物館数 2002

Type of collection	Number of museums	Number of museums providing data	Number of visits 2002	Number of temporary exhibitions
Local history, local ethnography and regional museums	2,773	2,201	18,152,793	4,465
Art museums	604	508	17,250,796	1,812
Castles with inventory	268	239	13,459,762	225
Natural history museums	311	248	7,127,529	389
Science and technology museums	720	572	14,849,646	658
Archaeology and history museums	383	319	14,302,341	347
Museums with a variety of collections	28	27	2,118,186	138
Cultural history museums on specialised topics	897	707	10,374,793	960
Museum complexes	75	71	3,582,955	279
Total	6,059	4,892	101,218,801	9,273

Visits to German museums 2002 - grouped according to type of collection

(出典：“A Guide to European Museum Statistics” Berlin, December 2004 (Materialien aus dem Institut für Museumskunde-Sonderheft 3: EGMS European Group on Museum Statistics), p. 54)

表3 ドイツ各16州の館数/データ提供館数・入館者数/企画展の数 2002

Land	Number of museums 2002	Number of museums providing data	Number of visits 2002	Number of temporary exhibitions
Baden-Württemberg	1,032	830	14,110,017	1,119
Freistaat Bayern Bavaria	1,082	867	20,454,338	1,335
Berlin	150	128	8,665,858	347
Brandenburg	344	265	3,315,507	535
Bremen	30	23	1,599,275	52
Hamburg	56	49	2,089,989	146
Hessen Hesse	421	327	4,806,695	632
Mecklenburg-Vorpommern Mecklenburg-Western Pomerania	171	151	3,199,571	343
Niedersachsen Lower Saxony	638	513	7,523,649	874
Nordrhein-Westfalen North Rhine-Westphalia	671	530	14,274,980	1,269

Rheinland-Pfalz Rhineland-Palatinate	383	283	4,106,085	448
Saarland	59	46	462,603	82
Freistaat Sachsen Saxony	370	326	7,051,071	835
Sachsen-Anhalt Saxony-Anhalt	216	188	2,463,789	439
Schleswig-Holstein	225	180	2,921,890	356
Thüringen Thuringia	211	186	4,173,484	461
Total	6,059	4,892	101,218,801	9,273

(出典：[表2]に同じ、p.55 - [表2] [表3] [表4] の出所：<http://www.ne-mo.org/fileadmin/Dateien/public/service/guidemuseumstatistics.pdf> (2013.11.2 検索)

ドイツには博物館の正式な定義はない。連邦各16州の設立認可を得られたならば、その州においては誰でも何処でもその機関／建物を「博物館」と称することができる。ドイツ博物館協会 (DMB=Deutscher Museumsbund)⁽¹⁾は、これまで何度かこの問題を研究してきた—最新は1978年—が、いずれも ICOM の定義に収斂している。常設展示・企画展・教育や修復の現場では、ドイツ語圏の ICOM ドイツ委員会・ICOM オーストリア委員会・ICOM スイス委員会とも ICOM “倫理規定” に従うよう定めている。

博物館数は、“ヨーロッパ博物館統計ガイド” (博物館学研究所 (IfM= das Institut für Museumskunde)⁽²⁾のデータを編纂)によれば、合計すると6,501館 (2002年) — IfM に回答した館数は6,059—である。このうちには488の「展示ホール」が含まれている。すなわち、非営利機関で独自のコレクションを持たないが企画展示・特別展示にスペースを提供しているホールも博物館に数えられているのである。したがって、館種は [表2] に示されたように日本に同じ9 (厳密にみれば11) に区分されている、すなわち：「郷土博物館 (地域史、民俗誌、地域総合)」「美術館」「(財産目録がある) 城砦」「自然史博物館」「科学・技術博物館」「考古学・歴史博物館」「特殊博物館 (多彩なコレクション：例えば ‘アイロン’ ‘紋章’ ‘消防車’ etc.)」「文化史博物館 (特別な史実に関係：例えば ‘ユダヤ人の虐殺/救命’ ‘対ナチスのテロの記録’ etc.)」「博物館複合体 (例えば ‘SMB’：注(1)、(2)の備考を参照)」である。ただ IfM の調査 ([表2] ~ [表4] の解題・説明) からは、「展示ホール」(488) がどの ‘区分’ に ‘いくつ’ 入っているかについては明確にされていない。

創設者・所有者別に分けると以下の表 (「データ提供館数」をカットした) のようになる。

表4 所有・管理者別分類

Type of ownership	館数	入館者数2002年	企画展数
連邦政府、州政府	491	24,565,796	815
地方自治体	2,510	27,131,455	5,060
公法に準じる機関・団体	387	19,474,090	618
私的協会団体	1,495	11,819,194	1,584
企業・協同組合	235	8,300,714	233
私立財団	89	2,511,252	209
個人	505	4,500,070	261
Mixed public & private	347	2,916,230	493
Total	6,059	101,218,801	9,273

(出典・出所：[表2]に同じ、p.54)

博物館の数だけ見るなら、日本約5800館・ドイツ約6500館とであまり違いはない、むしろ日本に ICOM の定義をあてはめればドイツに勝る館数であることに気づかされる。しかしながら、管見⁽³⁾からであるが、博物館の歴史・財政基盤 (職員数・職種を含む)・関連法規、そして何より交流の場としての「地域住民」と「ツーリズム」の関係において、なお日本はドイツから学ぶべきこと、見習うべきことが数多くあると考えられるのである。

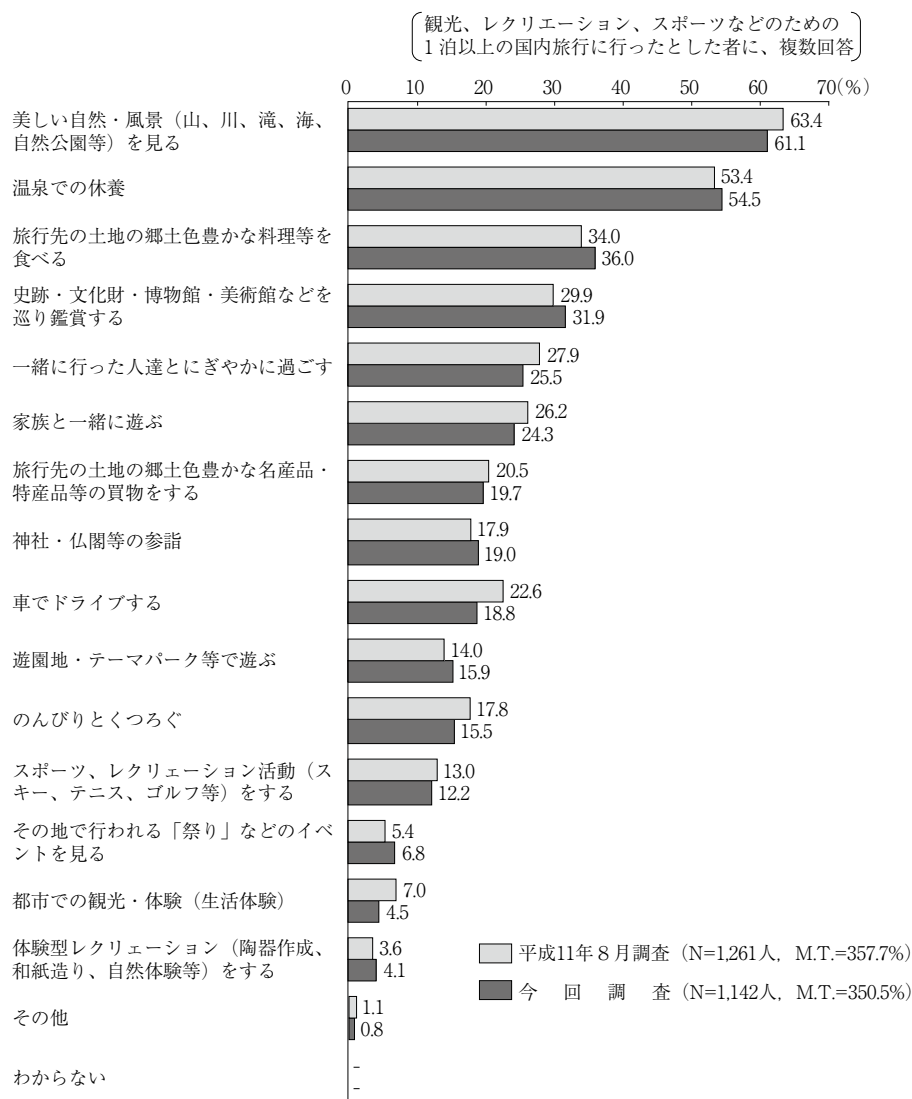
これまでの博物館と観光—これからの博物館はデスティネーション

1990年代、いわゆるニューツーリズム⁽⁴⁾が続々と登場してくるまでの一般の観光旅行において、博物館は観光旅行の真の目的地ではなく、その途中に立ち寄るところであった。他方、博物館の立場からみると、展示物はガラス・柵・“侵入禁止”のロープ越しに見せてやるもの—ショーウィンドウ型—から、明治100年（1968年）および同年に文化庁が発足した前後頃を期に、館員と入館者が交流・学習し展示物に触ることも場合によっては可能なもの—ハンズオン型—⁽⁵⁾へと大きく変化し始めた。経済の成長と社会の成熟が進み、大型の都道府県立／ドイツでは州立の博物館の設立が続き、日本もドイツも1960年代後半～1970/80年代になると美術館・博物館の入館者が大幅に増加してきたのである。

日本では新聞社などとの共催による大型展覧会⁽⁶⁾が成り立つようになり、ドイツでは博物館自体が入館者の急増にいちばん驚き、収集展示・保存修復・教育利活用の工夫・見直し、建築・デザインの新機軸が始まったのである⁽⁷⁾。博物館は、もはや観光旅行途上に立ち寄るところではなく、目的地としてめざして行くところへと変わり始めたのである。1980年代以降、日本でもドイツでも、国内外の博物館見学そのものを目的とする観光旅行が漸増していった。史跡や温泉を楽しむだけでなく、訪れた地域の歴史や文化をより深く学び、体験し（地元の人びと・入館者相互・館

Fig. 1 内閣府調査 図8

図8 国内旅行先での主な行動



員やボランティアと) 交流したいという観光者のニーズ、ウォンツが強くなっていったのである。

閉鎖の危機にあった旭山動物園が、展示の発想を変えて(静態展示を動態展示へ)復活し、上野動物園に並ぶ国内有数の入館者を数えるまでになったことは広く知られている。内閣府の調査(平成15(2003)年; 抜粋引用)によれば:

[2 調査結果の概要 2. 旅行 (1) 最近の国内旅行の満足度 ウ 国内旅行先での主な行動]

最近(この1年くらいの間)、「観光、レクリエーション、スポーツなどのための1泊以上の国内旅行に行ったとした者(1,142人)に、その旅行先での主な行動はどのようなものであったか聞いたところ、「美しい自然・風景(山、川、滝、海、自然公園等)を見る」を挙げた者の割合が61.1%と最も高く、以下、「温泉での休養」(54.5%)、「旅行先の土地の郷土色豊かな料理等を食べる」(36.0%)、「史跡・文化財・博物館・美術館などを巡り鑑賞する」(31.9%)などの順となっている。(複数回答、上位4項目)(図8)

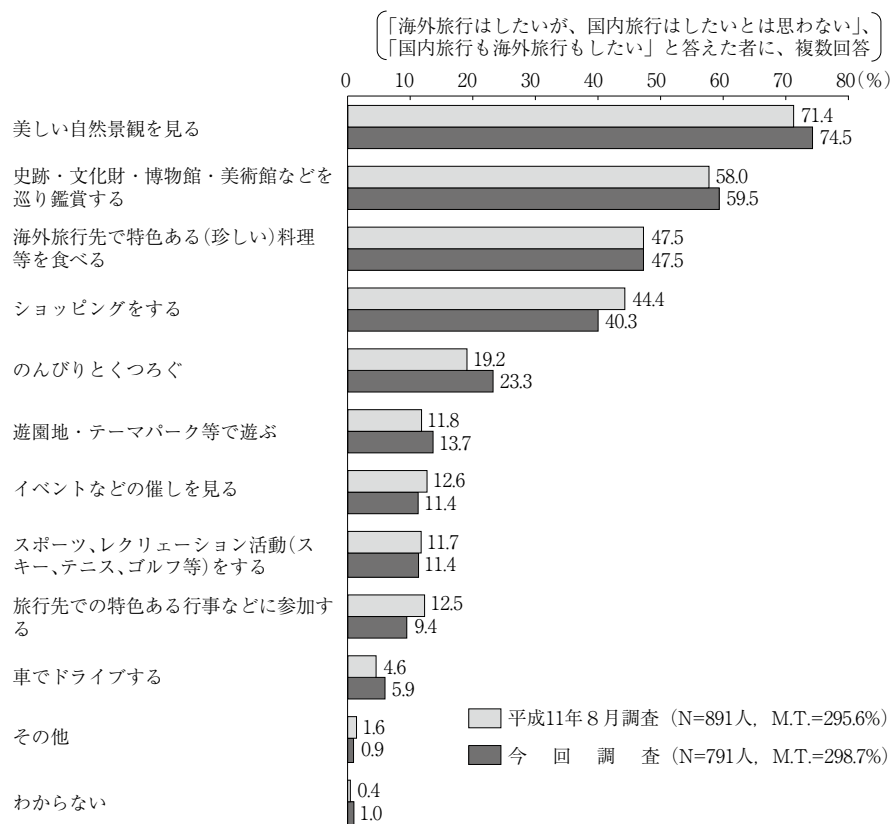
[同 2. 旅行 (2) 今後の国内旅行・海外旅行への意欲 オ 今後の海外旅行の主な目的]

今後(1年くらいの間)、観光、レクリエーション、スポーツなどのために「海外旅行はしたいが、国内旅行はしたいとは思わない」、「国内旅行も海外旅行もしたい」と答えた者(791人)に、したいと思っている海外旅行先での主な目的は何か聞いたところ、「美しい自然景観を見る」を挙げた者の割合が74.5%と最も高く、以下、「史跡・文化財・博物館・美術館などを巡り鑑賞する」(59.5%)、「海外旅行先で特色ある(珍しい)料理等を食べる」(47.5%)、「ショッピングをする」(40.3%)などの順となっている。(複数回答、上位4項目)(図15)

となっていて、博物館が観光旅行の目的に定着していること(国内旅行で4位、海外旅行で2位)が明確に見てとれるのである。

Fig. 2 内閣府調査 図15

図15 今後の海外旅行の主な目的



[Fig.1] [Fig.2] の出所: 「世論調査報告書平成15年8月調査

『自由時間と観光に関する世論調査』(内閣府大臣官房政府広報室)

<http://www8.cao.go.jp/survey/h15/h15-jiyujikan/index.html> (2013.11.30 検索)

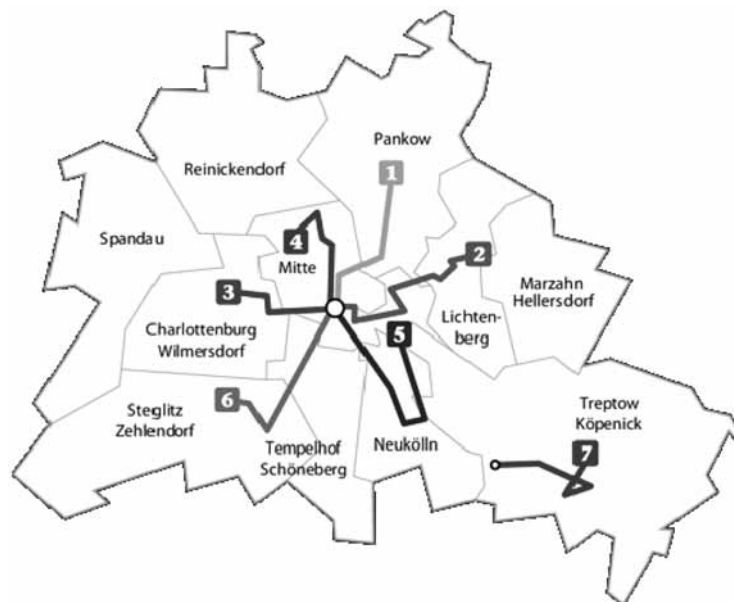
さらにドイツの博物館の変化を追うように、日本にもプラザ合意・バブル崩壊・失われた10年の間に、各地に特色のある個性的な博物館や館主催のイベントが増えてきたことも、入館者漸増の要因の一つだと言えよう。近年の実態をみても、ドイツの博物館入館者数は101,218千人（2002年：[表2]～[表4]）、日本は124,165千人（平成19（2007）年：e-Stat 政府統計の総合窓口 社会教育調査>平成20年度>統計表>博物館調査（博物館）、による）となっていて、統計数値だけからであるが、平均すると1年間に国民一人が1館以上に入館したことになる。日本にもミュージアム・ツーリズムを楽しむ階層が根付いたのである。

ベルリンが開いた新たなミュージアム・ツーリズム

2013年8月31日18:00（～2:00）、市長ヴォーヴェライト（Klaus Wowereit, SPD）の挨拶から第33回のベルリン「博物館の長い夜」が開催された。ベルリンにある博物館のほぼすべてと言ってもよい125館（DMBに属する館は150：[表3]）が、このイベントに参加している。参加博物館の一晩の催し（95館が午前2時まで開館）に、約2万3000人も集客し、いまや世界遺産「博物館島」を有するベルリンには欠かせない“旅行目的（地）”“イベント”となったといえよう⁽⁸⁾。

第1回は1997年1月末、MD Berlinと博物館（第1回はわずか12館）と一緒に「ベルリンのためのパートナー」を組み、実行委員会において年に2回、冬と夏に異なった重点の下に開催するとして始まった⁽⁹⁾。実行委員会は、博物館を探し出し、BVG⁽¹⁰⁾の多数の路線から約60の博物館バスが18時～午前2時の間運行されるよう準備も怠らなかった。その後第9回には70をこえる博物館・展示会・芸術関連プロジェクトが参加するものになり、バス路線は5ルート（2011年）に、さらに第31回からは7ルート [Fig. 3] にまで広がったのである。第31回の共催館を一覧にして [表5] に示す。

Fig. 3 「第31回博物館の長い夜」のバス・ルートとその概観⁽¹¹⁾



Übersichtsplan der Shuttle-Bus-Touren（シャトルバス・コースの概略図）

ROUTEN（ルート）

（ポツダム広場から6ルート、ベルリン南東部に1ルートあり（図の①～⑦）、約110の施設を結んでいる。①～⑥は乗り降り乗換自由。）
 Sechs Shuttle-Bus-Routen starten und enden am Kulturforum Potsdamer Platz, eine Außenroute erschließt den Berliner Südosten. Die Routen verbinden rund 110 Museen, Sammlungen und Kulturinstitutionen. Fünf Häuser befinden sich direkt am Kulturforum. Die südliche Route 6 bietet zusätzlich eine Zu- und Umsteigemöglichkeit.

- ① Kulturforum | Varian-Fry-Straße | S Potsdamer Platz/Voßstraße | Ebertstraße | Unter den Linden/ Friedrichstraße | Lustgarten | Spandauer Straße/ Marienkirche | S+U Alexanderplatz/Memhardstraße | Knaackstraße | Danziger Straße
- ② Kulturforum | Varian-Fry-Straße | S+U Potsdamer Platz | Leipziger Straße/Mauerstraße | U Kochstraße/Checkpoint Charlie | Wilhelmstraße/ Kochstraße | Technikmuseum | Jüdisches Museum | U Märkisches Museum | Berliner Rathaus (Hinweg), Nikolaiviertel (Rückweg) | Klosterruine (Hinweg), S+U Alexanderplatz/Grunerstraße (Rückweg) | Friedenstraße/Palisadenstraße | Platz der Vereinten Nationen | Oberseestraße | Freienwalder Straße
- ③ Kulturforum | Potsdamer Brücke (nur auf dem Hinweg) | Lützowplatz | Kurfürstenstraße | Jebensstraße | S Tiergarten | Eosanderstraße | Luisenplatz/ Schloss Charlottenburg
- ④ Kulturforum | Varian-Fry-Straße | S Potsdamer Platz/Voßstraße | Ebertstraße | Schumannstraße | U Naturkundemuseum (Hinweg), Invalidenpark (Rückweg) | Gerichtstraße/Hochstraße | Brunnenplatz | Osloer Straße/Prinzenallee | Seestraße/ Amrumer Straße
- ⑤ Kulturforum | Technikmuseum | U Mehringdamm | Fichtestraße | Karl-Marx-Platz (nur auf dem Hinweg) | U Karl-Marx-Straße (nur auf dem Hinweg) | Ohlauer Straße (nur auf dem Hinweg) Adalbertstraße/ Oranienstraße
- ⑥ Kulturforum | Potsdamer Brücke | Kaiser- Wilhelm-Platz | Albertstraße | Planetarium | Teltowkanalstraße | S+U Rathaus Steglitz (Hermann- Ehlers-Platz) | Grunewaldstraße/Lepsiusstraße | Archivstraße (nur auf dem Rückweg) | U Dahlem Dorf | Finkenstraße
- ⑦ Britzer Straße | S Schöneweide | Firlstraße | Rathaus Köpenick | S Köpenick

Fig. 4 「第31回博物館の長い夜」のポスター⁽¹⁾

31. Lange Nacht der Museen

Am Sonnabend, den 25. August 2012, 18.00 bis 2.00 Uhr



Fig. 5 「第30回博物館の長い夜」のポスター⁽¹⁾

30. Lange Nacht der Museen

Am Sonnabend, den 28. Januar 2012, 18.00 bis 2.00 Uhr



(2013年11月現在でも“YouTube”で第30回以降の模様を観ることができる)。

表5 「博物館の長い夜2010」共催館一覧（館名ABC順）

No. 館名(下に付記-参考邦訳/備考:種田)	地域(ベルリン/市内区)	コンタクト(&参照)URL(2012年9月23日検索)
(1) Abguss-Sammlung Antiker Plastik 「(ベルリン自由大学) 古代塑像(模造) コレクション」	Berlin/Charlottenburg	www.abguss-sammlung-berlin.de
(2) Alte Nationalgalerie 「旧ナショナルギャラリー」(国立博物館:新しい⑮に対して命名された館名)	Berlin/Mitte	http://www.smb.museum (以下の30博物館同じURL) ① Alte Nationalgalerie/ ② Altes Museum/ ③ Collection of Classical Antiquities/ ④ Bode-Museum/ ⑤ Sculpture Collection and Museum of Byzantine Art, Numismatic Collection/ ⑥ Friedrichswerdersche Kirche/ ⑦ Gemäldegalerie/ ⑧ Gipsformerei/ ⑨ Hamburger Bahnhof - Museum für Gegenwart - Berlin / ⑩ Kunstbibliothek/ ⑪ Kunstgewerbemuseum/ ⑫ Kupferstichkabinett/ ⑬ Museen Dahlem/ ⑭ Ethnological Museum, Museum of European Cultures, Asian Art Museum/ ⑮ Museum Berggruen/ ⑯ Museum für Fotografie/ ⑰ Helmut Newton Foundation, Collection of Photography / ⑱ Neue Nationalgalerie/ Neues Museum / ⑲ Egyptian Museum and Papyrus Collection, Museum of Prehistory and Early History/ ⑳ Pergamonmuseum/ ㉑ Collection of Classical Antiquities, Museum of Islamic Art, Museum of the Ancient Near East/ ㉒ Sammlung Scharf-Gerstenberg / ㉓ Schloss Köpenick/ ㉔ Kunstgewerbemuseum/ ㉕ Sonderausstellungshallen Kulturforum
(3) Altes Museum	Berlin/Mitte	http://www.smb.museum.de (=2)②
(4) Anne Frank Zentrum 「アンネ・フランク・センター」	Berlin/Mitte	http://www.annefrank.de
(5) Anti-Kriegs-Museum 「反戦博物館」	Berlin/Wedding	http://www.anti-kriegs-museum.de
(6) Archenhold-Sternwarte 「アルヒェンホルト天文台」	Berlin/Treptow	www.sdtb.de
(7) Automobil Forum 「自動車フォーラム」	Berlin/Mitte	http://www.automobilforum-berlin.de
(8) Bauhaus-Archiv Berlin 「バウハウス文書館ベルリン」	Berlin/Tiergarten	http://www.bauhaus.de
(9) Berliner Dom	Berlin/Mitte	http://www.berlinerdom.de/
(10) Berliner Medizinhistorisches Museum der Charité 「ベルリン医学史博物館」	Berlin/Mitte	www.bmm.charite.de
(11) Berliner Planetarium	Berlin/Steglitz	www.planetarium-berlin.de
(12) Berliner Rathaus 「ベルリン市役所」	Berlin/Mitte	http://www.berlin.de/rbmskzl/
(13) Berliner S-Bahn-Museum 「ベルリン市街電車博物館」	Berlin/Charlottenburg	http://www.ag-berlin-u-bahn.de/index.php/museum
(14) Berliner Waldmuseum mit Waldschule Grunewald 「林野学校グリュエネヴァルト附属森の博物館」	Berlin/Zehlendorf	http://www.waldmuseum-waldschule
(15) Berlinische Galerie	Berlin/Kreuzberg	http://www.berlinischegalerie.de
(16) Bertelsmann 「ベルテルスマン」[メディア・出版会社]	Berlin/ -	www.bertelsmann.de
(17) Bode-Museum	Berlin/Mitte	www.smb.museum.de (=2)④
(18) Brücke-Museum Berlin 「橋の博物館ベルリン」	Berlin/Zehlendorf	http://www.bruecke-museum.de
(19) Café Sibylle 「カフェ・ジビレ」[店内に作品展示]	Berlin/ -	www.cafe-sibylle.de
(20) Computerspielemuseum 「コンピューターゲーム博物館」	Berlin/ -	www.computerspielemuseum.de

- | | | |
|---|-----------------------|---|
| ⑫1) Dalí-die Ausstellung am Potsdamer Platz
(シュールレアリスム画家)「ポツダム広場ダリ
作品展示 (館)」 | Berlin/ - | www.daliberlin.de |
| ⑫2) DDR Museum
「旧東独博物館」 | Berlin/Mitte | http://www.ddr-museum.de |
| ⑫3) Denkmal für die ermordeten Juden Europas
「ヨーロッパで虐殺されたユダヤ人記念碑」 | Berlin/Mitte | http://www.stiftung-denkmal.de |
| ⑫4) Deutsche Guggenheim
「ドイツ・グッゲンハイム美術館」 | Berlin/Mitte | http://www.deutsche-guggenheim.de |
| ⑫5) Deutscher Dom | Berlin/Mitte | www.bundestag.de |
| ⑫6) Deutsches Blinden-Museum
「ドイツ視覚障害者 (のための) 博物館」[1906
年開館、2010年より現在地: 点字執筆具、触覚鑑賞
できる作品などを展示] | Berlin/Mitte | www.blindenmuseum-berlin.de/ |
| ⑫7) Deutsches Currywurst
Museum Berlin | Berlin/ - | www.currywurstmuseum.de |
|  | | |
| 「ドイツ・カレー (味) ソーセージ博物館」 | | |
| ⑫8) Deutsches Historisches Museum
「ドイツ歴史博物館」(1987年開館) | Berlin/Mitte | http://www.dhm.de/ |
| ⑫9) Deutsches Technikmuseum
「ドイツ技術博物館」 | Berlin/Kreuzberg | http://www.dtmb.de |
| ⑫30) Dokumentationszentrum NS- Zwangsarbeit
Berlin-Schöneeweide
「ナチス強制労働記録センター / ベルリン・
シェーネヴァイデ」 | Berlin/Treptow | www.dz-ns-zwangsarbeit.de |
| ⑫31) Dokumentationszentrum Topographie des
Terrors
「テロ [ヒットラー第三帝国時代ベルリンで発生し
たテロ] の地誌記録センター」 | Berlin/ - | www.topographie.de |
| ⑫32) Energie-Museum Berlin | Berlin/Steglitz | www.energie-museum.de |
| ⑫33) Ephraim-Palais
「エフライム宮殿」(建築家 Friedrich Wilhelm Dite-
richs が造った (1762~1766) ロココ宮殿に美術・
美術史を展示) | Berlin/Mitte | www.stadtmuseum.de (以下 4 博物館は同じ URL)
① Märkisches Museum ② Nikolaikirche
③ Knoblauchhaus ④ Museumsdorf Düppel |
| ⑫34) Feuerwehrmuseum Berlin
「消防車博物館ベルリン」 | Berlin/Reinickendorf | www.feuerwehrmuseum-berlin.de |
| ⑫35) Filmakademie Kelle | Berlin/Kreuzberg | www.filmakademie-kelle.de/kamerasammlung |
|  | | |
| 「フィルムアカデミー・ケレ」 | | |
| ⑫36) Forum Willy Brandt Berlin
<small>ウィリーブランドフォーラム</small>
「国家元首記念館」[1994年連邦議会により設立] | Berlin/ - | www.willy-brandt.de |
| ⑫37) Friedhof der Märzgefallenen
「[1848年] 3月革命犠牲者の墓地 (と歴史展示)」 | Berlin/Friedrichshain | www.friedhof-der-maerzgefallenen.de |
| ⑫38) Friedrichswerdersche Kirche | Berlin/Mitte | http://www.smb.museum.de (=2)⑥) |
| ⑫39) Galerie Parterre
「バルテーレ・ギャラリー」(旧市営第4ガス製造
所建物 [保存建築] を活用し現代美術を展示) | Berlin/Pankow | www.galerieparterre.de |


- (40) galerie son Berlin/Mitte <http://www.galerie-son.com>
 「ソン・ギャラリー」[アジア芸術の紹介館：今回は北朝鮮 MANSUDAE Studio から選抜した同国現代アートを展示]
- (41) Gaslicht-Kultur e.V.  Berlin/Charlottenburg www.gaslicht-kultur.de
 「ガス灯文化協会」[ベルリンには全世界の半数以上(約44000)のガス灯が現役点灯している]
- (42) Gedenkstätte Berlin-Hohenschönhausen Berlin/Hohenschönhausen www.stiftung-hsh.de
 「記念の地 ベルリン・ホーエンシェーンハウゼン」[現在検証中の、旧共産主義独裁下の政治的弾圧迫害の文書類・帰結・写真等を展示]
- (43) Gerichtshöfe Wedding Berlin/Wedding www.gerichtshoefe.de (URL 検索不可)
 「ヴェディング諸法廷」
- (44) Glockenturm am Olympiastadion Berlin/- www.glockenturm.de
 「オリンピックスタジアム時計塔」
- (45) Groß Landesloge der Freimaurer von Deutschland Berlin/- www.freimaurerorden.de
 「ドイツ国内フリーメイソン最上位集会所」
- (46) Hanf Museum Berlin  Berlin/Mitte www.hanfmuseum.de
 「麻の博物館」
- (47) Haus am Lützowplatz Berlin/- www.hausamluetzowplatz-berlin.de
- (48) Haus der Wannsee-Konferenz Berlin/- www.ghwk.de
 「ヴァーンゼー会議の家」(製薬工場経営者 Ernst Marler (1875-?) 邸 (1914/15建設) は、歴史的変遷(ユダヤ人抹殺会議等)を経て文書館]
- (49) Humboldt-Box Berlin/Mitte www.humboldt-box.de
 [中心地将来建設計画(Humboldt-Forum)の紹介展示館]
- (50) Industriesalon Schöneweide Berlin/- www.industriesalon.de
 「シュプレー川上流地域の産業史展示館」[水・金の午後開館] ※『博物館の長い夜』に今回初参加
- (51) Jüdisches Museum Berlin Berlin/Kreuzberg www.jmberlin.de
 「ユダヤ博物館ベルリン」
- (52) Jugend Museum Berlin/Schöneberg www.jugendmuseum.de
 「青年(若者)博物館」
- (53) Keramik-Museum Berlin  Berlin/Charlottenburg www.keramik-museum-berlin.de
 「ベルリン陶器博物館」
- (54) KLAX-Kinderkunstgalerie Berlin/Prenzlauer Berg www.klax-galerie.de

- | | | |
|--|-----------------------------|--|
| 55) Klosterruine
「修道院廃墟」 | Berlin/Mitte | www.klosterruine-berlin.de |
| 56) Knoblauchhaus | Berlin/Mitte | www.stadtmuseum.de (URL は⑬に同じ) |
| 57) KPM Welt der Königlichen Porzellan-
Manufaktur Berlin
「ベルリン王立磁器 ^{メスファクトゥール} 手工業工房」 | Berlin/Charlottenburg | www.kpm-berlin.de |
| 58) Kreuzberg Museum | Berlin/Kreuzberg | www.kreuzbergmuseum.de |
| 59) Kulturforum Potsdamer Platz-Gemäldegalerie | Berlin/Tiergarten | www.smb.museum (=2)⑳ |
| 60) Kulturforum Potsdamer
Platz-Kupferstichkabinett | Berlin/Tiergarten | www.smb.spk-berlin.de/kk/s.html (=2)㉑ |
| 61) Kunstgewerbemuseum im Schloss Köpenick | Berlin/Köpenick | www.smb.museum/kgm (=2)㉒ |
| 62) Labyrinth Kindermuseum Berlin
「迷宮子ども博物館ベルリン」[1997年開館] | Berlin/Wedding | www.labyrinth-kindermuseum.de |
| 63) Liebermann-Villa am Wannsee
「ヴァーンゼー湖畔のリーパーマン屋敷」[画家
Max Liebermann (1847-1935) が建て (1909)、彼の
作品を展示した館 (2006年開館)] | Berlin/Zehlendorf | www.liebermann-villa.de |
| 64) LOXX am Alex
「(アレクサンダー広場の) ロックス」[縮小模型
の世界: ベルリンの市街地模型と世界最長のHOゲー
ジ鉄道模型 (操作可) がある] | Berlin/Mitte | www.loxx-berlin.de |
| 65) MACHmit! (Museum für Kinder)
「いっしょにやろう! (子供博物館)」 | Berlin/Prenzlauer Berg | www.machmitmuseum.de |
| 66) Märkisches Museum | Berlin/Mitte | www.stadtmuseum.de (URL は⑬に同じ) |
| 67) Mauermuseum-Museum Haus am
Checkpoint Charlie | Berlin/Kreuzberg | www.mauermuseum.de |
|  | | |
| 「壁博物館」[Rainer Hildebrandt (1914-2004) が
1962年に始めた小さな展示が起源] | | |
| 68) Mies van der Rohe
Haus | Berlin/
Hohenschönhausen | www.miesvanderrohehaus.de |
|  | | |
| 「ミース・ファン・デル・ローエ・ハウス」 | | |
| 69) Mitte Museum
「中央区博物館」[地域の史資料・文献・遺物を蒐
集展示] | Berlin/Mitte | www.mittmuseum.de |
| 70) Mitte Museum am Festungsgraben | Berlin/Mitte | http://www.mittmuseum.de (URL は69)に同じ) |
| 71) MocTA-Museum of contemporary TrashArt | Berlin/Mitte | www.mocta.de |
| 72) Museen Dahlem-Ethnologisches Museum | Berlin/Zehlendorf | www.smb.museum (=2)㉓⑭ |
| 73) Museum Dahlem-Museum für Asiatische Kunst | Berlin/Zehlendorf | www.smb.museum/aku (=2)㉔⑭ |
| 74) Museum Blindenwerkstatt Otto Weidt
「オットー・ヴァイト盲人作業所博物館」[第2
次大戦中小工場主 O.Weidt は多数のユダヤ人を匿い
救命したその記録展示] | Berlin/Mitte | www.museum-blinde werkstatt.de |
| 75) Museum Charlottenburg-Wilmersdorf
「シャルロッテンブルク・ウィルマースドルフ博
物館」[1987年開館地域文化史] | Berlin/ - | www.villa-oppenheim-berlin.de |

76) Museum der Unerhörten Dinge 「途方もないモノの博物館」[ヴンダーカンマーの系譜を継承]	Berlin/Schöneberg	www.museumderunerhoertendinge.de
77) Museum Europäischer Kulturen	Berlin/Zehlendorf	www.smb.museum/mek (=2)⑬⑭)
78) Museum für Film und Fernsehen 「映画とテレビ(映像)の博物館」	Berlin/Tiergarten	www.deutsche-kinemathek.de
79) Museum für Fotografie-Helmut Newton Stiftung	Berlin/Charlottenburg	www.smb.museum/mf (=2)⑯)
80) Museum für Kommunikation Berlin 「コミュニケーション博物館ベルリン」	Berlin/Mitte	wwwmfk-berlin.de (URL 検索不可)
81) Museum für Naturkunde 「自然誌博物館」	Berlin/Mitte	www.naturkundemuseum-berlin.de
82) Museum Kesselhaus Herzberg 「内燃機関(Kessel)の博物館」(石炭で動かす内燃機関を展示)	Berlin/Lichtenberg	www.museumkesselhaus.de
83) Museum Köpenik 「郷土博物館ケェベニック」(1930年学校博物館として開館・発展:「郷土博物館トゥレプトゥ」(1991年開館)と2館で1つの地域(ベルリン・トゥレプトゥ-ケェベニック)博物館を形成)	Berlin/ Köpenik	www.heimatmuseum-treptow.de
		Museum Treptow(左)と Museum Köpenik
84) Museum Lichtenberg	Berlin/Lichtenberg	www.museum-lichtenberg.de
85) Museum Pankow	Berlin/Prenzlauer Berg	www.berlin.de/orte/museum/prenzlauer-berg-museum/museumsverbund/prenzlauer/ (URL 検索不可)
86) Musikinstrumenten-Museum 「楽器博物館」(プロイセン文化財団に属し、ヨーロッパ有数の楽器コレクション [16~20世紀3200余点]を持つ)	Berlin/Tiergarten	www.mim-berlin.de
87) Mutter-Kind-Bunker Fichtestraße 「母子待避壕[「地下博物館」のガイドルートF:休止中]」(1883/84年にガスタンクとして建設され(1937年まで使用)1940年代前半最大[母6500+子供たちを収容]最新[内部設備=空調/自家発電/昇降機等:現役]の外壁石造待避壕)	Berlin/Kreuzberg	www.berliner-unterwelten.de
88) Puppentheater-Museum Berlin 「人形劇博物館ベルリン」	Berlin/Neukölln	www.puppentheater-museum.de
89) Rathaus Köpenik 「ケェベニク市役所」	Berlin/Köpenik	www.berlin.de/ba-treptow-koepenick
90) Rixdorfer Schmiede 「リックスドルフの鍛冶場」(17世紀ボヘミアの村鍛冶の伝統を受継ぐ亡命移民子孫が1911年取壊しの危機を乗り越え1985年改組発展、2004年8月から380年の歴史上初の女性オーナー/専門技能者が運営)	Berlin/ Neukölln	www.rixdorferschmiede.de
91) Sammlung Scharf-Gerstenberg	Berlin/Charlottenburg	www.smb.museum (=2)⑳)
92) Schloss Britz	Berlin/Neukölln	www.schloss-britz.de
93) Schloss Charlottenburg	Berlin/Charlottenburg	http://www.spsg.de



「シャルロッテンブルク城」

094	Schwules Museum Berlin 「同性愛（ホモセクシュアリティ）博物館ベルリン」	Berlin/Kreuzberg	www.schwulesmuseum.de
095	Science Center Medizintechnik Berlin 「医療技術サイエンスセンター・ベルリン」	Berlin/-	www.sciencecenter-medizintechnik.de
096	St. Marienkirche 「聖マリア教会」（市の中央にあるプロテスタント教会）	Berlin/-	www.marienkirche-berlin.de
097	St.Matthäus-Kirche 「聖マタイ教会」（2000年から絵画・音楽・書籍展示）	Berlin/Tiergarten	www.stiftung-stmatthaeus.de
098	Stadtgeschichtliches Museum Spandau 「シュパンダウ（地区）歴史の博物館」（ゴシック様式家屋2階にあり、小規模に生活史資料を展示）	Berlin/-	http://www.berlin.de/orte/museum/gotisches-haus/
099	Stasi. Die Ausstellung zur DDR-Staatssicherheit 「国家公安局：旧東独国家公安局の展示」（標語には“独裁についてよりよく知るほど、私たちは民主主義をよりよく形成できる”とある）	Berlin/-	www.bstu.bund.de
000	Tränenpalast 「涙の宮殿」（東西分裂期、「フリードリッヒ ^{シュトラッセ} 通 駅」は東から西へ“国境”越え旅する人びとの別れの場所だった〔現在保存建物〕）	Berlin/Mitte	www.hdg.de/berlin/traenenpalast-am-bahnhof-friedrichstr
001	Verein Berliner Künstler 「ベルリン芸術家協会」	Berlin/Mitte	www.vbk-art.de
002	Vivantes GmbH （ファイファンテス健康ネットワーク（株）：現在土地建物所有）“黙殺された者、1933-1945 ヴィッテナウ療養所の歴史”展	Berlin/-	www.totgeschwiegen.org
003	Werkbund-Archiv 「工芸連盟アーカイヴ」（DWB（ドイツ工芸連盟1907年創設）の記録・関連文書の収集：「ものの博物館 Museum der Dinge」内）	Berlin/Kreuzberg	www.museumderdinge.de
004	Willy-Brandt-Haus 「ウィリー・ブランド・ハウス」（本名 Herbert Frahm1913～1992、SPD 最初の首相、1971年ノーベル平和賞受賞）	Berlin/Kreuzberg	www.willybrandthaus.de
005	Zille Museum 「ツィレ美術館」（アカデミー会員・ベルリン名誉市民だった H.Zille（1858～1929）の作品を展示）	Berlin/Mitte	www.heinrich-zille-museum.de
006	Zoo-Aquarium Berlin 「ベルリン動物園の水族館」	Berlin/Mitte	www.aquarium-berlin.de
007	Zucker-Museum  1910年（設立）頃の「砂糖（の）博物館」 (450m ² の中に“砂糖の経済史”を展示)	Berlin/Wedding	www.sdtb.de/Zucker-Museum.6.0.html

ドイツの博物館が、コレクション重視から入館者（大衆）参加型へ転換し始めるのは1970年代後半頃からであった。同じころアメリカでは博物館の経営（マネジメント）を科学的に研究する施設がカリフォルニア大学に設置され、「全米の館長職が研修を受けられるようになり、博物館の活性化に役立つ人材の養成が行われている。マーケティング・リサーチを中心に、ビジョン実現のための利用者サービスのあり方がマネジメントのポイントであり、視点をモノ中心から観客中心としている」¹²⁾この影響もあった。

ドイツ・アメリカ・日本、そして世界の博物館が入館者（大衆）参加型へと変化していく趨勢と、観光旅行がマストゥリズムからオルターナティブ（もう一つ別の）・ツーリズムへと変わっていく中で、人びとのニーズはさまざまなミュージアム・ツーリズムを産み出すことになったのである。「博物館の長い夜・ベルリン」もその一つであった。このコンセプトは成功裏に毎回多数の観客を集客できるから、すぐさま39カ国・120以上の都市・参加館2000以上へと波及している（2007年5月現在）：¹³⁾

主催／共催都市：ドイツ	館・ギャラリー・ステーション数	備考
マンハイム・ハイデルベルグ・ルードウィヒヒスハーフェン	100以上	ライン - ネッカー三角地域が一体で開催。
フランクフルト／M、オッフエンバッハ／M	多数（2000年から19：00～1：00）	年間の2大行事の一つにまでなった。
ライブツィッヒ	大学も参加	「コンピューターゲームの長い夜」を専門大学 HTWK で開催。
ボン	他と異なった枠組み（Museumsmeilenfest）	「デモクラシーの長い夜」（1995～）の一環として。
ミュンヘン ¹⁴⁾	14館は午後こども向けプログラム（～18時）／90以上（19：00～2：00）	1999年に始まる。10月の土曜日開催、およそ2万人来館（2011.10.15）

その他の開催都市：パイロイト、プレーメン、コーブルク、ダームシュタット、ドルトムント、ドレスデン、デュッセルドルフ、エアフルト、ハンブルグ、ハノーバー、イエーナ、カールスルーエ、カッセル、コブレンツ、ケルン、リューベック、マインツ、マイゼン、ミュンスター、ニュルンベルク、オルデンブルク、ロストック、シュトゥットガルト、ワイマールー [ベルリン以外はいずれも年1回開催。ベルリンも「2014年は5月17・18日」開催を告示しており、1回（しかし2日間）になるかもしれない（種田）。

「博物館の長い夜」の展開と課題

「博物館の長い夜・ベルリン」の衝撃は、すぐにドイツ国内外に及んで行った。2000年からオーストリア、南チロル／イタリア、リヒテンシュタインで始まった「長い夜」はORF（オーストリア放送協会）が組織し、2003年には25万人の来場者を数え、2004年オーストリア全土では437館、2009年には650館以上に443,500人、2010年には443,800人が来館した。首都ウィーンでは2012年、121の館・ギャラリーが参加している。しかし、その一方で2012年全境のチケット販売数は434,873となり、2010年より約1万人減少したことは今後の展開を考える上でも注目に値する。

ポーランドでは2003年からポズナン国立博物館が組織し、2010年にはすでに主要14都市が参加する規模になっている。スイスでは、バーゼル・ベルン（2003年から）・ルツェルン・ザンクトガレン・チューリッヒ（1999年から）で開催されている。スロヴァキアでは2005年から首都ブラチスラヴァで始まり、2010年には30の館・ギャラリー・文化施設が参加している。チェコでは、首都プラハで明確な記録はないが2005年から始まり、2012年には39の館・展示場が約20万人の来場者を迎えている。

ヨーロッパではその他にUK、フランスーパリ及び全土（2005年から）で、オランダーアムステルダムで、ハンガリーーブダペストで、ブルガリアープロブディフ（Plovdivで2005年から）で、スペインーバルセロナで、クロアチア（2005年から）、ロシア、ルーマニア、セルビア（2004年から）、ラトヴィア（2005年から）、エストニア（2009年から）で開催されている。

ヨーロッパ以外では、アルゼンチンーブエノスアイレスで2004年から開始され、博物館とその周囲を巻き込み館数は漸増している。フィリピンはセブで2007年から「遺産の夜（Night of Heritage）」と称し開始された¹⁵⁾。

日本では「博物館の長い夜・ベルリン」をモデルに長野県諏訪市が、2005年7月27日（水）・28日（木）の2日間、

周辺11館から始めた「諏訪の長い夜」を挙げることができる⁽¹⁶⁾。2010年の詳細は以下である：

スポット名	諏訪の長い夜
住所	長野県諏訪市 諏訪湖周美術館・博物館12施設
T E L	0266・52・2155
営業時間	【2010年データ】7月30日（金）、31日（土）9時～22時、シャトルバス運行は30日12時～22時、31日9時～22時
料金	当日：大人2,500円、小中高校生800円、未就学児無料 前売：大人2,000円、小中高校生500円、未就学児無料 ※16施設入場料、シャトルバス利用料を含む
アクセス	中央道諏訪から車で約15分、JR 中央本線上諏訪から車で約8分
出所	「諏訪の長い夜」（2012年9月／2013.12.15 検索） http://www.week.co.jp/kankou/%E8%AB%8F%E8%A8%AA%E3%81%AE%E9%95%B7%E3%81%84%E5%A4%9C/

本年（2013）は「諏訪湖まちじゅう芸術祭2013」（<http://suwako-art.jp/nagaiyoru/>）の“オープニングイベント 諏訪の長い夜 8.23～24”として15館が参加して行われた（23日土曜は12時～24時、24日日曜は10時～22時開館）。ベルリンやウィーンのチケット（料金）が、シャトルバス代を含めて12～15ユーロ（1ユーロ≒140円）というところまでよく似ている。

「博物館の長い夜」は、ミュージアム・ツーリズムの可能性を大きく広げてきたし、今後さらに多くの国で採り入れられるものとなろう。これまでミュージアム・ツーリズムは

- ①博物館（あるいは「友の会」）がイベントを主催（またはスポンサーを得て共催）・催行し、そのイベントを観光対象とする〔注12記載：国立民族学博物館、千葉市立加曾利貝塚博物館ほか多数〕（1960/70年代～）；
- ②館そのもの（ぜひ見たいもの／そこにしかないコレクションの取得、あるいは建物・建築）を観光（鑑賞）対象とする〔山梨県立美術館のミレー“落ち穂拾い、夏”；金沢21世紀美術館〔妹島和世・西沢立衛設計〕、ビルバオ・グッゲンハイム美術館〔フランク・ゲーリー設計〕ほか多数〕（1970/80年代～）；
- ③博物館にあまり縁のない人びとに、博物館の方からアプローチして潜在的来館者を掘り起こし（将来的に）ツーリズムにつなげていく〔出前博物館／移動博物館、博物館メッセ⁽¹⁷⁾ほか多数〕（1980/90年代～）、の3つくらいであった。

これら「サイト（①・②）」あるいは「点（または点の小集合＝③）」として「博物館」を観光対象とするツーリズムから、観光者が選んだ「線（ルートをたどり楽しむ）」あるいは「面（博物館だけでなく、館が立地する都市・地域）」を一体として観光の目的（地）とするツーリズム（④）が新しく誕生した、それが「博物館の長い夜・ベルリン」だったのである。

ミュージアム・ツーリズムの可能性の裏には課題も多い。なかでも博物館、都市／地域、観光者の相互関係、すなわち館と館、館と地域、館と観光者、地域内、地域と観光者、観光者同士の間で、どのようにすれば最大の成果が得られるかのマネジメントは常に課題としてあげられる。それは時代と社会と人心の変化、例えば少子高齢化・ITの発展・絆の希求などをどのように博物館に、そしてミュージアム・ツーリズムに帰着させるかという課題である。そしてまた、ここで「博物館」を「観光」に置き換えればまさに「観光の課題」でもあると言えるのである。

注記・備考

- (1) 1917年設立の、ドイツ国内すべての博物館および関連施設と、そこで働く人びとの利益代表連合会（Interessenverband）である。多様なドイツの博物館事情を反映し、博物館に係るあらゆる問題（人・モノ・資金・情報）に対応している。（<http://www.museumbund.de/>（2013.11.17 検索））なお、本稿中の「表「博物館の長い夜」共催館一覧」も参照されたい。
- (2) 1979年設立の、ドイツ唯一の博物館だけを管轄する公立研究所。各州の研究所と密接に連携しているが、一部はベルリン公立博物館連合体（SMB=Staatliche Museen zu Berlin：ベルリンが州・首都市という特性ゆえ「国立」でなく「公立連合体」とした）でもある。そしてSMBは、連邦政府と16州が維持する「プロイセン文化財団」（SPK=die Stiftung Preußischer Kulturbesitz）に属している。<http://www.staatliche-museen.de/>（2013.11.17. 検索：一部更新中）

SPKは1957年に設立された。設立の背景には、その10年前（1947年：第2次大戦終了後すぐ）、プロイセン諸邦の最終的解体により諸邦の公的重要なコレクション（文化財）の所有権問題を律する新たな立法措置が講ぜられたことにある。財団は、その法律により設

立され、コレクションの所有権を受け継いだのである。以後、ドイツ再統一による新たな立法まで、財団はプロイセンの文化財を保存・管理・修復してきた。1990年の統一条約により、財団は、やはりかつてプロイセンの財産でDDR（旧東ドイツ）の施設に保管されていたものも受け継いだのである。（要旨：“Geschichte der Stiftung Preußischer Kulturbesitz”、出所：<http://www.preussischer-kulturbesitz.de/ueber-uns/profil-der-spk/geschichte.html>（2013.11.18. 検索））

- (3) たとえば庄谷邦幸・種田明「産業技術史研究における各国博物館の機能に関する国際比較調査研究—ドイツ・オーストリア—」（『技術と文明』第4巻1号（日本産業技術史学会）、1988年、p. 63～80）；種田明「ミュージアムの成立と展開—19世紀、近代における学の成立とミュージアム—」（『19世紀学研究』第5号（新潟大学人文科学研究科）、2011年）、p. 77～91を参照されたい。
- (4) ニューツーリズムとは「21世紀型の新しい観光旅行時代を提起する言葉。…「環境にやさしい観光」といわれるエコツーリズムや、農山漁村などでの滞在型余暇活動として期待のかかるグリーンツーリズムなど、オルタナティブツーリズム（マストツーリズムに代わるもう1つの観光形態）といわれる観光展開…」のことである。（北川宗忠編著『観光・旅行用語辞典』ミネルヴァ書房、2008年、p. 188）
- (5) 1964年、ボストン子供博物館（<http://www.bostonkids.org/>）スポック館長が開発した博物館教育の理念：「博物館は人のためにあるものであり、物のためにあるものではない」（出所：<http://www.i.hosei.ac.jp/~sakamoto/syllabus/handson.pdf>（2013.11.28. 検索））。1980年代、関係者の間では“（展示物に）タッチ&トライ”とも言われていた。
- (6) 国立西洋美術館・東京国立博物館で開催された展覧会を抄録してみる：

開催年	展覧会名	入館者数（全国総計）	巡回地
1962年	ピカソ・ゲルニカ展	8.7万人（ — ）	京都、愛知
1964年	ミロのビーナス特別公開	83.1万人（175万人）	京都
1965年（※）	ツタンカーメン展	—（295万人）	京都、福岡
1966年	ロダン展・没後50年記念	31.8万人（ — ）	京都、福岡
1974年（※）	モナ・リザ展	150.1万人	巡回なし
1976年	オランダ国立ヴァン・ゴッホ美術館所蔵 ヴァン・ゴッホ展	43.5万人（ — ）	京都、愛知

出所：国立西洋美術館 <http://www.nmwa.go.jp/jp/exhibitions/past/> の各年、および東京国立博物館（※）http://www.tnm.jp/modules/r_free_page/index.php?id=1470の1960～1970；1970～1980より。（2013.11.26. 検索）

- (7) 種田明「博物館教育の社会史的一考察—ドイツを例として—」（『博物館学雑誌』7巻2号（1982年）、p. 1～5；ドイツでは日本よりやや早く、1970年代後半から館（官）・産・学・民が共同（主動したのは館）で「友の会を組織／会誌刊行」「講演会や公開実験」「ショップ／レストランの充実（グッズ開発や館外から食事だけでも来られるよう改築）」「修理工房でものづくり体験（参加型）」「博・学連携（小中高校だけでなく大学・研究機関とも）」「リカレント教育」「コンサート／会議等会場としての利用拡大」など、さまざまな取組みやプロジェクトが試行・開始されていた。
- (8) http://de.wikipedia.org/wiki/Lange_Nacht_der_Museen（2013.09.01検索）。来館者数はウィキペディア英語版では「2005年1月には125館に15万人にも上った」とある。（http://en.wikipedia.org/wiki/Lange_Nacht_der_Museen（2013.09.01 検索））2013年の第32回は、これまでの“冬”（1月開催）から“春”（3月16日（土））に変更された。参加館数等は「Online Focus」の記事：http://www.focus.de/regional/berlin/museen-vorverkauf-fuer-lange-nacht-der-museen-beginnt_aid_1062273.html（2013.12.01 検索）から引用。
- (9) 「MD Berlin：Lange Nacht der Museen」（<http://8.lange-nacht-der-museen.de/>（2011.04.11. 検索））より。MD Berlin=Museumspädagogische Dienst Berlin（博物館教育サービス・ベルリン）、2006年にBerliner KulturveranstaltungsGmbHと合併し、現在はKulturprojekte Berlin GmbH（文化プロジェクト・ベルリン（株））である。
- (10) BVG=Berliner Verkehrsbetriebe ベルリン交通局、市内の旅客輸送（鉄道、地下鉄、路面電車、バス）を統括するところである。
- (11) <http://www.lange-nacht-der-museen.de/>（2012.08.24. 検索）より。入館者は展示の案内だけでなく、「多様な文化的おもてなし（ein reiches Spektrum an Kulturangeboten jeder Art）」[コンサート、パフォーマンス、朗読、講演、Malaktion（オンライン共有絵描き）、映像／映画その他]を受けられる。ある館ではケータリング（軽食を出前ブース／特設テーブルなどで低価格で提供する）サービスもある。（http://archiv.lange-Nacht-der-museen.de/9/ueber_uns/（2011.04.11 検索））
- (12) 長谷政弘編著『観光学辞典』同文館、平成20（2008）年¹¹：p. 185・項目「ミュージアム・マネジメント」（諸岡博熊）。私見であるが、O・マイヤー（Otto Mayr 1930～：スミソニアン研究所からドイツ博物館館長、著作『時計じかけのヨーロッパ—近代初期の技術と社会』平凡社、1997）の影響もあるのではないかと。ドイツ博物館では、1980年代から館主催のツアー（欧米・海外の史跡・博物館めぐり）、館庭にテントを張り親子で流星群を見る催し、1週間／週末館に泊まり特別展示解説・講義を受講できるセミナー等々を隔年おきくらいに開催している（ドイツ博物館機関誌‘Kultur & Technik’・季刊を参照）。

日本でも、例えば国立民族学博物館「友の会（1978～）」（財団法人千里文化財団）主催の「民族学研修の旅」や千葉市立加曾利貝塚博物館「友の会（…改称1977～）」が企画した多彩な催しがある（各博物館友の会 HP／ブログを参照）。

- (3) 39カ国に広がった2007年5月19日、19都市の第3回を欧州評議会そしてユネスコが支援したことは、「博物館の長い夜」がヨーロッパ全域に定着したことを示している。（19都市：バク、ブリュッセル、ロンドン、パリ、シュトラスブルク、ザグレブ、プラティスラヴァ、バルセロナ、マドリッド、リスボン、ベルグラード、タリン、ブダペスト、ベニス、ルガーノ、ヴィルニス、クラカウ、ワルシャワ、ブカレスト—出所：http://de.wikipedia.org/wiki/Lange_Nacht_der_Museen（2013.09.01 検索）より。）

さらに「ヨーロッパ博物館の夜が、2010年5月15日土曜、フランスをはじめ、ヨーロッパ42カ国で開催されます。フランス文化通信省が2005年に創設したこのイベントは、フランスやヨーロッパにとって、夜間特別開館日に大勢の人々を集めるとともに、アイデンティティや文化を発見する共通プロジェクトに参加する機会となります。…博物館や美術館1,100館を含む2,200館以上が19時半から夜遅く

まで特別開館され、演劇仕立ての見学コースや一夜限りのインスタレーション、映像と音響によるアトラクション、コンサートなど、趣向を凝らした斬新な催し物が開催されます。」(「フランス便り『美術ファン必見、ヨーロッパ博物館の夜2010』」<http://www.ambafrance-Jp.org/spip.php?article3961> (2013.09.10 検索)) そして記事はそれに続き、「…来場者は増加の一途をたどり、2005年には100万人でしたが2009年には180万人に達しました。…」と、この文化行事の浸透度と関心の高さを報じている。

- (14) <http://www.muenchner.de/museumsnacht/> (2012.04.30 検索) より。ミュンヘンでは2013年の10月19日土曜に第15回が開催され、翌20日を「Museumsnacht PLUS」(15回目の記念)とし、ミュンヘンの周囲15郡(Landkreis)から44の館・城砦を選んで「長い夜」来館者全員(半券提示すれば)無料招待」と広告している。(http://www.Muenchner.de/museumsnacht/ (2013.09.10 検索) より)
- (15) http://de.wikipedia.org/Wiki/Lange_Nacht_der_Museen (2013.09.01 検索) ; 英語版の http://en.wikipedia.org/wiki/Lange_Nacht_der_Museen (2013.09.01 検索) とも。記事にはセブが「アジア・太平洋で最初」とあるが、本文に見られるとおり諏訪市の方がアジア・太平洋初である。
- (16) その他に「諏訪の長い夜」(www.suwa-nagaiyoru.com)、「諏訪の長い夜ブログ」(http://blog.suwa-nagaiyoru.com/2005/05/post_1.html)
- (17) 出前博物館・移動博物館はペルーのアマノ博物館(天野芳太郎により1964年設立)を嚆矢とする(<http://www.museoamano.com/jp/museoamano.html> (2013.12.19 検索))。博物館メッセのアイディアは端信行(兵庫県立歴史博物館館長、国立民族学博物館名誉教授)にある。現在は「北大阪ミュージアムメッセ」として国立民族学博物館のイベントとなっている(<http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/workshop/20131103>)。